旧林愛作邸の紹介と重要性について

世田谷区教育委員会事務局
生涯学習課 文化財係

旧林愛作邸とは

・所 在 地：　世田谷区駒沢一丁目1番
（東京府荏原郡駒沢村字上馬引沢932番地）

・規　　模：　敷地面積約2.8ha、延床面積333.31㎡

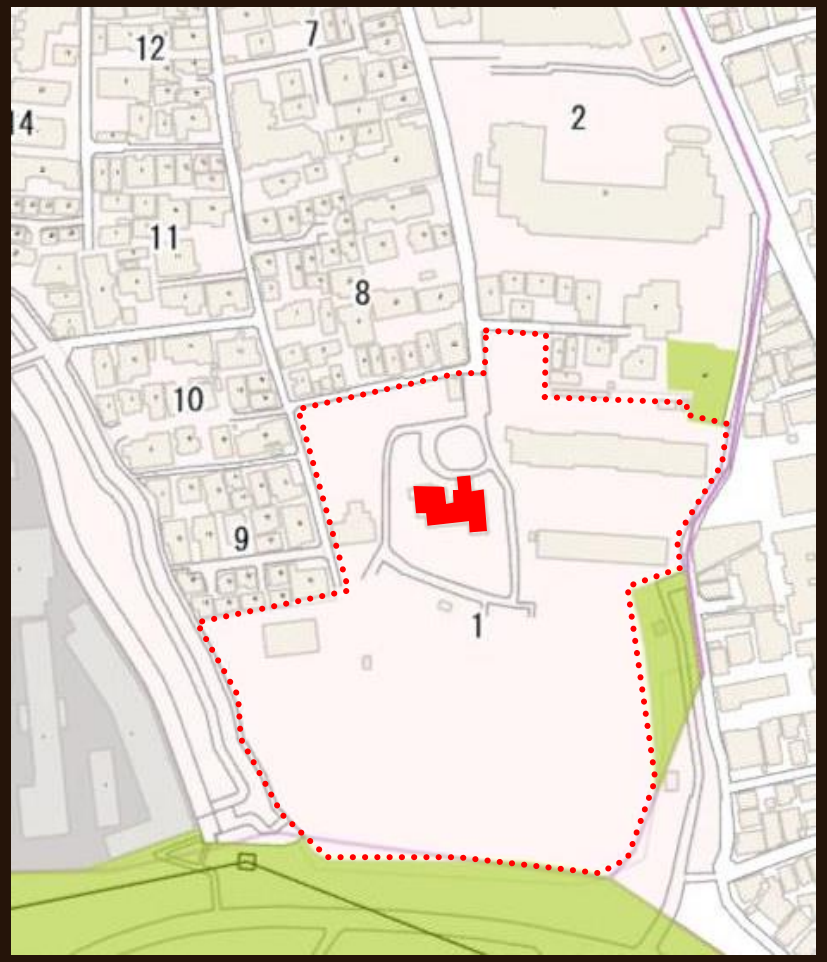
・構　　造：　木造平屋建（一部地下1階）、寄棟屋根銅板葺

・建築年代：　大正6年（1917）～大正8年（1919）の間

・施　　主：　林　愛作（帝国ホテル支配人）

・原 設 計：　フランク・ロイド・ライト（米国の建築家）

旧林愛作邸とは



現在の地図

昭和13年（1938）の地図

（国際航業株式会社に著作権が帰属する白地図データベースを使用）

旧林愛作邸とは

建物南側の庭園より和室及び大広間を望む

建物南側より徒渉池と大広間を望む

林　愛作について

・明治6年（1873）群馬県休泊村（現在の太田市）に生まれ、13歳の時、一人で横浜に出て働く
・19歳の時、渡米しサンフランシスコで働く
・27歳から10年間、東洋美術貿易商「山中商会」で働き、ニューヨーク支店長となる
・36歳で日本人初の帝国ホテル支配人となる
・ゴルフの普及に努め、東京ゴルフ倶楽部（現駒沢オリンピック公園）の開設（大正3年）にも寄与
・49歳の時、帝国ホテル支配人を辞す
・昭和26年（1951）、77歳で亡くなる

林愛作と帝国ホテル

・帝国ホテル会長大倉喜八郎、初代会長渋沢栄一らから支配人就任依頼

・支配人に就任 【明治42年(1909)】

・ホテルの改革に着手、様々な新サービスを手掛ける

・ホテルの改築にあたり、フランク・ロイド・ライトに設計を依頼【大正5年(1916)】

・帝国ホテル 二代目本館の工事着工 【大正8年(1919)】

・工事遅延、予算超過に本館火災が重なり支配人辞任 【大正11年(1922)】

・帝国ホテル 二代目本館（通称「ライト館」）完成 【大正12年(1923)】

フランク・ロイド・ライトについて

・1867年（慶応3）、ウィスコンシン州に生まれる
・21歳の時、シカゴのサリバン事務所に入所
・26歳でサリバン事務所を退所し独立
・浮世絵の蒐集家で複数回来日、林とも親交
・49歳の時、帝国ホテル設計の契約締結し、以後
　6年間、米国と日本を往復
・林の辞任直後、新館完成前に帰国
・1959年（昭和34）、91歳で亡くなる

F.L.ライトの建築

●近代建築の世界3大巨匠とも称され、後の建築に多大な影響を与えた

・近代建築（モダニズム建築）とは？

19世紀後半に新古典主義建築を打破する新たな潮流

伝統様式を優先　→　機能性を優先

装飾をデザイン　→　空間と駆体をデザイン

石やレンガを多用　→　鉄筋コンクリートやガラス(新たな建材)を多用

・ライト以外の「巨匠」は？

ル・コルビジェ（1887年生まれ　スイス→フランス）

上野の国立西洋美術館を含む17件の建築物が世界遺産に登録

ミース・ファン・デル・ローエ（1886年生まれ　ドイツ→アメリカ）

「トゥーゲントハット邸」が世界遺産に登録

F.L.ライトの建築

●ライト建築の特徴は？

・有機的建築（Organic Architecture）を提唱

敷地や周囲の環境との一体性や調和を強調

機能に応じて空間を区分しながら、空間と空間の連続性を重視

・プレーリーハウス

ライト建築前期の代表的コンセプト

低い屋根や長い庇で水平面を強調した横長の配置

装飾に幾何学的な模様を用い独自のデザイン性を表現

・ユーソニアンハウス

ライト建築後期の代表的コンセプト

中産階級をターゲットに必要諸室を規格化し有機的に結合

F.L.ライトの建築

・2019年「フランク・ロイド・ライトの20世紀建築作品群」8件が
ユネスコ世界遺産に登録

- ユニティ・テンプル（イリノイ州　1905）
- ロビー邸（イリノイ州　1908）
- タリアセン（ウィスコンシン州　1911）
- ホリーホックハウス（カリフォルニア州　1918）
- ジェイコブス邸（ウィスコンシン州　1936）
- カウフマン邸ー落水荘ー（ペンシルベニア州　1934）
- タリアセン・ウェスト（アリゾナ州　1938）
- グッゲンハイム美術館（ニューヨーク州　1943）

・ライトの業績における著名な建築物ではなく、建築の発展に寄与する
普遍的な価値を有する8件の建築物を登録

日本に残るライト建築

重要文化財「自由学園 明日館」（豊島区西池袋）

木造平屋建（一部二階建） 大正10年（1921）～大正14年完成

帝国ホテル設計の傍ら、自由学園創設者の羽仁夫妻の依頼により設計

ライトの帰国後は、弟子の遠藤新らが引継ぎ完成

日本に残るライト建築

重要文化財「自由学園 明日館」（豊島区西池袋）

・プレーリースタイルの表現
・大谷石を建物内外に多用
・窓枠や室内装飾の幾何学模様
・アイボリーの壁面と黒系色の木製枠とのコントラスト
・机や椅子もオリジナルデザイン
・平成9年、重要文化財に指定（遠藤新が設計した講堂も同時指定）

日本に残るライト建築

重要文化財「旧山邑家住宅（ヨドコウ迎賓館）」（兵庫県芦屋市）

鉄筋コンクリート造4階建　大正13年（1924）完成

帝国ホテル設計の傍ら、酒造家の山邑太左衛門の依頼により設計

ライトの帰国後は、弟子の遠藤新らが引継ぎ完成

日本に残るライト建築

重要文化財「旧山邑家住宅（ヨドコウ迎賓館）」（兵庫県芦屋市）

- 周辺環境との有機的関係性の表現
- 大谷石を内外に多用
- 窓枠や室内装飾の幾何学模様
- 和室の欄間や床の間もライト式
- 木材装飾によりRCに有機質を付加
- 連続する窓ガラスによる開放感
- 昭和49年、重要文化財に指定
  （RC造として初の重文指定）

日本に残るライト建築

登録有形文化財「明治村帝国ホテル中央玄関 」（愛知県犬山市）

鉄骨鉄筋コンクリート造3階建　昭和60年移築復元

昭和43年の帝国ホテルライト館解体に伴い、博物館明治村内に

中央玄関部分のみを復元

在りし日のライト館

帝国ホテル 二代目本館（麹町区内山下町≪千代田区内幸町≫）

・プレーリースタイルの表現
・大谷石を建築建材として初めて本格導入
・すだれ煉瓦（スクラッチ煉瓦）を初導入
・大谷石、テラコッタとすだれ煉瓦を組合せた装飾
・平等院鳳凰堂にも似た左右対称の配置
・軟弱地盤に適応すべく「浮き基礎方式」を考案
・日本においては、震災後から戦前までライト式建築として、大谷石やスクラッチタイルの使用、幾何学模様の装飾などが広まった

当時のすだれ煉瓦

日本に残るライト建築

「旧林愛作邸」（世田谷区駒沢）

・プレーリースタイル
・大谷石を内外に使用
・水平連続窓による開放感
・玄関引き戸と換気口に
　共通するHのデザイン

・顧客の依頼による設計ではないため、他の現存建築物よりも簡素なデザイン
・林とライトの関係や日本とライトのつながりを物語る貴重な現存遺構
・都市化が進む以前の世田谷の近代化の過程を物語る貴重な現存遺構

旧林愛作邸の文化財としての重要性

●日本に現存するライト建築物

・4棟のみ現存するライト建築物の一つである

・ライト前期の特徴である周辺環境と一体となったプレーリースタイルがよく表現されている

・大谷石の使用（日本のみ）や水平連続窓など、ライト建築物の特徴が見られる

●林愛作とライトと日本の関係性

・ライトが低迷期を経て再び世界的建築家となる転換点となった帝国ホテル

・林愛作が日本にライトを招いたからこそ、国内にライト建築物が現存する

●世田谷の近代化を物語る地域の歴史遺産

・電車や自動車の登場により、世田谷が都心に近づきつつある時期の現存遺産

・ゴルフ場設置の適地であった世田谷と都心との関係を物語る現存遺産

旧林愛作邸は、

2棟の重要文化財と同様に国民共有の財産であり、世田谷の近代化の過程を物語る現存史料としても貴重な文化財です。

将来にわたり現位置（周辺の池等の庭園を含む）において保全及び活用されるとともに、然るべき文化財保護制度による保存が望まれます。